

微生物検査室における Chat GPT の活用の試み

◎島野 有以¹⁾、大江 宏康¹⁾、大谷 初美¹⁾
金沢大学附属病院¹⁾

【背景および目的】当院は ISO15189 を取得しており、診療現場からの問い合わせに対する検査室の返答を記録するシステム「アドバイスサービス」を運用している。近年、働き方改革が推進されており、業務の効率化が急務である。そこで、生成 AI の活用により、問い合わせに対して自動で回答が可能となれば返答までの時間を短縮でき、人員を減らすことにより、業務の効率化に貢献し得ると考え、AI サービスのひとつである ChatGPT(OpenAI 社)の活用を試みた。

【対象および方法】2013 年 4 月から 2023 年 8 月までに、当院の微生物検査室が対応したアドバイスサービス 30 件中、類似する質問を除外した 15 件を対象とした。記録されているアドバイスサービスの問い合わせ内容を ChatGPT に入力し、回答を得た。次に、アドバイスサービスの責任者が問い合わせに対するアドバイスサービス者の回答と比較し、どの程度一致しているかを 5 段階で評価した。完全に一致している場合を評価 5、一部修正が必要だが大きな問題ではない場合を 4、半分一致している場合を 3、間違いが多い

場合を 2、全くの間違いまたは致命的な間違いがある場合を 1 とした。

【結果】全 15 件中、ChatGPT による回答とアドバイスサービス対応との一致率が高い順に、評価 5 は 1 件 (7%)、4 は 2 件 (13%)、3 は 3 件 (20%)、2 は 2 件 (13%)、1 は 7 件 (47%) であった。一致率が高い内容は、感染症届出の手段、抗菌薬の菌への適性など、明確な定義があるものに関する問い合わせであった。一方、評価 1 の内容は、菌の検出状況や患者背景に関する内容であった。個人情報に関しては ChatGPT が回答できなかった。

【考察】微生物分野において、起炎菌の同定、抗菌薬の選択等、患者背景を考慮せずには判断ができない問い合わせも多い。今回得られた結果より、症例に即した具体的なコンサルテーションに関する問い合わせへの回答の一致率が低く、定義や手順などが明確な内容のものは一致率が高いことを踏まえて、ChatGPT の適用場面を適切に選択することが必要と考えられる。